

邊津芳次さんのザ・コースマップ

南国伊豆から桜だより - 大室山から松川湖へ(12.9キロ)



桜が見ごろ - 秋冷の候 伊豆半島ならではの花だよりである。

10月18日午前9時20分、伊豆高原駅の気温は22度だった。秋晴れ。駅前から路線バスに乗った。シャボテン公園前で降りた。お椀を伏せたような大室山が目の前。全山を覆うススキの穂が軽やかにおいでをしている。さくらの里をめざしてゆるい坂道をくだった。

前方に人の列。観光バスから降りた「桜見客」たちが進む先に、淡いピンクの彩り。いまが見ごろだという。ススキとサクラ。汗ばむ陽気。温度計は28度。季節感、まことにちぐはぐだ。



大室山



十月桜

約4万平方メートルのさくらの里には40種3000本の桜が植栽されており、夏の時期を除き間断なく桜が楽しめます(伊東市観光課)。大室山を覆いつくしているススキは、2月の第2日曜日にすべて焼き払われる。全山いっせいに点火されて激しく火の手があがる山焼きは豪快な火祭りである。

さくらの里から横断歩道を渡り、十足、伊東市街地方面に向う。300メートルほど進むと左側にキャンプ場がある。キャンプ場を突切り、オレンジ色のコース案内標識(ゆったり湯の町ウォーク)から外れないように注意しながら松川湖をめざす。山中のけもの道を、地元のボランティア

団体が散歩道にした。木漏れ日の心地よい道が続く。

15分ほどで林道「奥野の小道」に合流。「松川湖」の案内板にしたがって左折する。冷気を感じて、左側を流れる清流に気づく。渓谷沿いの歩きやすい道だ。アケビがぶら下がっている。山栗が散らばっている。

いまごろ鮮やかな紫色の花をつけているのはタマアジサイだ。鈴なりの真っ赤な実はヒヨドリジョウゴ。一粒つまみたくなるが、この実をついばんだヒヨドリが酔っ払いさながらにふらつくほど毒があるそうだ。すぐ近くでカマキリが交尾していた。大きな雌一匹に雄二匹。交尾が終われば雄は食べられる運命……



ヒヨドリジョウゴ



カマキリ道の両側に、ネットに囲われた苗木が

点々と続く。ロウバイの並木道をと、伊東市内のボランティア団体が浄財を集めて植樹した。ネットは鹿除けだが、肝心の苗木は環境に合わなかったらしく立ち枯れが目立つ。

残念例がもうひとつ。まわりの山にユーカリの巨木がひょろひょろ立っている。「紙の原料になる有望な木」の触れ込みがあって、ひとやま当てようとしたが、目論見は外れてしまったという。コアラの餌には不向きな樹種だとか。

50分ほどで白川橋。橋を渡り、気が向けば松川湖畔の遊園地を歩くのも一興。大相撲の決まり手「河津掛け」の碑がユニーク。トイレは飛び石を伝って、対岸のログハウスへ。ダムの方水路まで20分ほど。右側の急な階段は、おくの公園に通じている。特別養護老人ホームの前を過ぎるとバイパス車道に出る。横断して万葉の小径への坂道を登る。「沿道に自生する万葉の植物」(伊東市観光課)を探してみたが、結局わからずじまいのままゴールの南伊東にたどりついた。

(朝日新聞の役立つ無料会員サービス「アスパラクラブ」から転載)